

2012年10月

神戸工場が「平成24年度循環型社会形成推進功労者」 として環境大臣より表彰を受けました

森永乳業株式会社（本社：東京都港区芝 5-33-1、社長：宮原道夫）は、グループ会社を含む各事業所において、さまざまな環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

このたび、環境省などの主催で10月15日に東京都千代田区で開催された「第7回 3R* 推進全国大会」において、神戸工場（兵庫県神戸市）が「3R 活動優良企業」部門で循環型社会形成推進功労者として環境大臣表彰を受けましたので、お知らせいたします。

当工場では、工場建設当初より環境にやさしい工場を目指し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。製造に際してはさまざまな副産物が発生しますが、これらをボイラー燃料とする仕組みを構築し、エネルギーとして有効利用しています。その他、排水汚泥を乾燥し肥料化していること、プラスチックカップを破砕洗浄して有価物化していることなどが評価され表彰を受けました。

なお、当社の受賞は平成21年度の東京多摩工場（東京都東大和市）に次いで2度目となります。

*「3R」とは、ゴミの削減や資源の有効活用に関する取り組みを表すリデュース（Reduce 発生抑制）、リユース（Reuse 再使用）、リサイクル（Recycle 再資源化）という3つの英単語の頭文字です。

1. 森永乳業グループの循環型社会形成推進の取り組み

森永乳業グループは、1993年に環境保全業務要綱を制定し、環境保全活動の一つとして「3R活動」を積極的に推進しています。2011年度のグループ全体の製造事業所における再資源化率は96.4%、直接最終処分率は0.7%でした。

2. 神戸工場の活動

神戸工場は、次のような活動を推進し廃棄物量を大幅に削減しました。

(1) バイオマス熱利用設備

バイオマス熱利用設備では生産工程から発生する副産物をエネルギー化します。コーヒーかすは自身の持つ熱量が高いため、自然できる水分まで乾燥機で水分を調整した後、

燃焼させます。飲料、ヨーグルトなどの残渣は水分が多く、そのまま燃焼させても熱量的にはマイナスなため、メタン発酵によって、可燃性のバイオガスを取り出し、燃焼させています。濃厚な食品排液をメタン発酵処理することで排水処理場への負担も下がりました。発生させた熱は排熱ボイラーにより蒸気として、殺菌など生産工程で利用し、都市ガスの使用量削減に役立てています。

(2) 排水汚泥の肥料化

排水は排水処理場で清浄化しますが、清浄化の過程で余剰汚泥が発生します。一部はバイオマス熱利用設備にてエネルギーとしますが、残りについては乾燥機で乾燥させ、乾燥菌体肥料として有価で販売しています。

(3) 廃プラスチック類の高度利用（有価物化）

検査サンプルなど、工場で処理されるプラスチックカップは、リサイクル業者と共同で検討を進め、一定のサイズに破碎洗浄することでプラスチック原料としてリサイクルできるようにしました。

3. 神戸工場の概要

住 所：〒657-0854 兵庫県神戸市灘区摩耶埠頭3番

工 場 長：立石一郎

従業員数：約 150 名（2012 年 3 月末時点）

生 産 品 目：アセプティック飲料、ヨーグルト、流動食